

私を変えてくれた剣道

徳島県

鳴門市光武館道場

小学6年 大谷心海

去年の暮れころから、コロナウイルスという言葉が耳にするようになりました。でも私は外国のことで、日本には関係ないことだと思い、別に興味はありませんでした。ところが今年の二月になると、ふだんはどこでも見かけるマスクや消毒液がお店から消え、学校も休校になってしまいました。どんどん広がるコロナウイルスにきょうふを感じました。剣道の練習も中止となり、家で過ごす時間がふえました。学校へ行く、友だちと話す、買い物へ行く。ふだんあたりまえにしていたことができなくなりました。私はとても悲しい気持ちになりました。早くコロナウイルスが消えてしまわないかと、毎日願っていました。

そんな中、私が一番おどろき悲しかったことがあります。それはコロナ差別があると知ったことです。テレビでその言葉をよく聞くようになりました。その人を傷つけるようなことを書いた紙を家にはったり、県外ナンバーの車に石をなげたり、SNSなのでひどいことを書き込んでいる人がいるそうです。コロナウイルスがこわいという気持ちはわかるし、感染したくないのはみんな同じです。それなのに、かかった人にいやなことをするのはちがうと思います。もし、コロナ差別をした人がコロナに感染したら、どんな気持ちになるでしょうか。自分におきかえて考えてほしいです。私は剣道を通して、人を思いやることの大切さを教えていただきました。いつも相手の立場に立って行動する、相手の気持ちを考える大切さです。だから、私はぜったいにコロナ差別をしません。

四月に入り、うれしい知らせがありました。剣道の練習の再開です。短時間でのマスクをつけての練習、防具をつけないすぶりや打ちこみ中心の練習。いつもとはちがう練習だったけれど、再開されたことはとてもうれしく思いました。久しぶりに先生や友だちに会えて本当にうれしかったです。

私は改めて、剣道を習い始めてから今までのことをふり返ってみました。入門して最初に先生に教わったことは、あいさつをすることでした。次に教わったのが、トイレのスリッパを後から入る人が使いやすいようにきちんとそろえることでした。剣道を始めるまでの私は、気が弱く、大きな声をだすこともできませんでした。そのせいか、同級生からも仲間はずれにされていました。いやなことをされてもいやだといえず、だまってがまんしていたので、毎日がとてもつらかったです。でも、そんな私を剣道がかえてくれました。あいさつが、相手の目を見て大きな声でできるようになりました。自分の家や他の人の家に上がる時、くつをきれいに並べるのがあたりまえにできるようになりました。ほめられることもたくさん増えました。そして少しずつ自分に自信がついてきました。練習も、私が苦しそうにして

いると、仲間が「大丈夫、あと少しがんばろう。」と声をかけはげましてくれるおかげで、弱音をはかずに最後までがんばれるようになりました。剣道が私を強くしてくれたと思います。いやなことはいやと友だちにも言え、自分の気持ちをすなおに伝えることができるようになりました。今は仲間はずしもなくなり毎日がとても楽しいです。

このように、私が変わることができたのは剣道を通してたくさんの人に支えてもらったからです。優しく、そして厳しく指導してくださる先生方、はげまし合いながら一緒に頑張れる仲間たち、いつも見守り応援してくれる家族。コロナウイルスで様々なことが制限された中だからこそ、改めて剣道が私にとってどんなに大切かを考えることができました。私も六年生。最高学年としての自覚をもって、いっしょうけんめい練習に打ち込みます。そしてこれからも、自分ができることを勇気をだして行います。それが私の剣道と出会えたことへのおん返しです。